

## 運動部活動の地域移行に関する最近の状況等について

- 全中に民間クラブ容認 23 年度から中体連要件緩和へ  
(2022. 3. 9／朝刊 18 面／読売)
- 部活運営外部にお任せ 教員負担減へ渋谷区「合同クラブ」  
(2022. 3. 22／夕刊 9 面／毎日)
- 子どもの柔道 勝利第一でなく 全国大会廃止 今後の課題は魅力発信  
(2022. 3. 22／朝刊 11 面／朝日)
- 部活改革大きな前進 (2022. 3. 30／朝刊 27 面／読売)
- 「全中に地域クラブ」表明 中体連 23 年度から参加要件緩和  
(2022. 3. 30／朝刊 36 面／読売)
- 学校部活動の改革 地域社会も担う仕組みに  
(2022. 4. 4／朝刊 5 面／毎日)
- 部活強制 生徒の意思は (2022. 4. 9／朝刊 19 面／朝日)
- 部活クライシス<sup>上</sup> 苦渋の小学校異動 土日返上「家族を犠牲」  
(2022. 4. 13／朝刊 1 面、3 面／毎日)
- 部活クライシス<sup>中</sup> 団体競技に少子化の影  
(2022. 4. 14／朝刊 6 面／毎日)
- 部活クライシス<sup>下</sup> 「陰の部員」保護者疲弊  
(2022. 4. 15／朝刊 4 面／毎日)
- 開かれる憧れの「全中」 (2022. 4. 16／朝刊 18 面／朝日)
- 「顧問に選択権」声なき声 (2022. 4. 21／朝刊 6 面／毎日)
- 中学の部活 地域と融合 (2022. 4. 22／朝刊 21 面／読売)
- 少年団全国大会 中止を検討 (2022. 4. 23／朝刊 21 面／毎日)

# 地域スポーツの振興や部活動改革に対する地域の受け止め事例

## 愛知県春日井市

### <市としての取組>

- ・ 文化スポーツは、地域コミュニティをつなげる力を持っていると考え、市政の中で重要な柱として取り上げてきた。平成21年に「文化スポーツ部」を設置し、平成29年には「文化・スポーツ都市宣言」を行った。

### <施設>

- ・ 当市には総合体育館や野球場はあったが、陸上競技場がなかったため、朝宮公園整備に取り組むこととした。一方、昭和40年代頃から小・中学校の体育施設の地域開放に取り組んできた経緯があり、スポーツにおける地域と学校の関わりは深いと考えている。

### <指導員>

- ・ 運動部活動について、教師の負担感や少子化の影響を考えると改革せざるを得ないと認識。現在、教師を支えるべく約150人の外部指導員を中学校に入れている。
- ・ また、指導員の意識や技術レベルは千差万別、全体のレベルをどのように上げるのが課題。指導者には、勝たせたいという気持ちがある一方、子供たちにどこまで負担をもとめるのかという葛藤がある。
- ・ 自分も長年道場で剣道を指導してきた経験があるが、指導の仕方は以前と比べて相当変化しており、指導員をどのように教育していくのかも課題。また、どこまで誰が責任を持つのかも考えなければならない。
- ・ 部活動で教師にどこまで指導に関与してもらうかは、非常に悩んでいる。指導したいという教師への対応や、勤務時間との兼ね合い、手当の問題などについても検討が必要。部活動を継続していくためには、様々な人々が指導に携われる仕組みを構築する必要があるのではないかと。
- ・ その際、地域におけるスポーツクラブをどう絡めていくのか。特に民間のスポーツクラブは「経営」をしていかなければならない点に留意が必要。

### <大会の在り方>

- ・ 春日井市では、剣道の全国大会として「全国高等学校剣道選抜大会（第1～31回）」や「全日本女子学生剣道優勝大会（第28～40回）」を開催しており、コロナ禍ではあるが、感染症対策をしっかり講じて対応している。  
全国大会を目指すことで子供たちが成長する面もあると考えているが、勝利することだけを追いかけるのは問題がある。

### <その他>

- ・ トップアスリートからの指導の機会は大切にしたい。春日井市では萩原智子選手に指導をしてもらったり、広報大使を務めていただいたりしている。子供のモチベーション、目指すモデルができることは大きい。また、トップアスリートが地元に戻ってきてくれることはその地域にとってとても有り難い。
- ・ 国には、トップアスリートへの支援や育成に力を入れてほしいと考える。その上で、学校における部活動については子供たちが楽しんでやるのが重要だと思う。全国レベルの子供たちもいれば、スポーツをただ楽しみたいと思っている子供たちもいることを踏まえて検討してほしい。

## 愛知県大口町

- ・ 人口 24,000人程。人口は微増傾向にある。
- ・ 企業誘致に力を入れ、工業生産出荷額は全国19位、愛知県では豊田、田原、みよしに次いで4位の町。不交付団体。
- ・ 中学校1校（教員50名程、生徒数680名程、7クラス）、小学校3校
- ・ 平成20年4月に2校あった中学校が統合して1校となった。

### <部活動の現状>

- ・ 現在の部活動数は、運動系11、文化系4。
- ・ 大口町では部活動指導を嫌んでいるという教員の声は聞こえてこない。
- ・ ガイドラインに沿って土日はどちらか一方かつ1日3時間の活動としている。
- ・ 部としての会費は集めていない。

### <今後の部活動の在り方について>

- ・ 部活動は学校・教師だけでなく地域（みんな）で実現するもの。生涯学習となることが重要。（働き方改革は裏テーマ）
- ・ 今は学校にスポーツクラブが入っている形だが、将来的には関係者と相談しながら学校の部活動から離れていき、兼職兼業を教員もする形でスポーツクラブ化（社会体育）の方向で進められればと思っている。

### <地域移行への経緯等（ウィル大口スポーツクラブ）>

- ・ 2002年にスポーツクラブがスタートして現在21年目。行政主導型で大口町から話を受けて当クラブで請け負うこととなった。経営について、補助金はなく自主事業で黒字としている。独自に展開していきながら行政の後ろ盾がある形。

以下の3種目をモデルとして部活動の地域移行を進めている。

- ・ サッカー 現行の部活（経験豊富な顧問）
- ・ バレーボール 現行の部活（経験のない種目の顧問）
- ・ 水泳 新設の部活（指導者がおらず廃部となっていた）

### ～事業を支えている地域スポーツ団体からの声～

人間関係含め、トラブルなく進められている。陸上、バスケ、剣道も地域移行を検討中。

- （生徒）技術的なことを教えてもらえ、高いレベルで活動ができる。
- （教員）自分以外の指導者がいてくれる安心感がある。

今のところ保護者からクレームもきていない。今年度は部活動懇談会等を実施し話を聞く機会を設ける予定。なお、経費負担、責任の所在は今後の課題だが、事業において特に問題は生じていない。